

# BIU/BCJ 2014 バイクトライアル競技規則

## 第1項：バイクトライアルの定義

バイクトライアルとは特殊な自転車を用いて行われるスポーツで、減点数をできるだけ少なくするよう努めながら自然又は人工の難しいセクションを定められた時間内に走破する競技である。

## 第2項：コース

コースは小道に設定され(必要な場合には森や道路に設定されることもある)、その間にいくつかのセクションが設けられる。ラップ(1周)の距離は、Group B & C 部門(第11項参照)の場合は最高2kmとし、Group A 部門の場合は最高5kmとする。選手はコースを2周するものとする。また、定められたコースに沿って走らなければならない、近道をしてはならない。

## 第3項：参加申し込み

その年にそれぞれの国のバイクトライアル連盟によって発行された B. I. U. (国際バイクトライアル連盟) ライセンスを提示して申請を行う。選手はライセンスを1年に1通しか取得することができない。認可された選手と自転車が競技に参加することができる。参加者の定員は大会の特別規則に定められる。手書きのライセンスは認められない。ライセンスナンバーは3桁の国番号と5桁の発行番号によって構成される。(例：アメリカ=001-00001, チェコ=420-00001)

## 第4項：セクション

- 1) セクションは新しく、公正なものでなければならない。
- 2) 危険なセクションは避けるものとする。
- 3) セクションはそれぞれが互いに実質的に異なるもので、かつ変化にとんだものでなければならない。
- 4) セクションの出口のラインは各セクションの難度の高い箇所から最低2m離して設置すること。
- 5) 大会は1ヶ月前に別の大会が開催された場所で開催されてはならず、主催者は異なったセクションを作れるよう新しい場所を探そう努めるものとする。

## ●その他

- 1) セクションの長さとお幅  
長さ：約20m  
幅：最低1m
- 2) セクション数  
グループA：最低10、最大14セクション  
グループB & C：最低6、最大8セクション  
(但し、ミニメは最大10)
- 3) 飛び降りの高さの設定はカテゴリー別に制限され、下記の通りである。
  - a. エリート：飛び移る2つの障害物の間の高低差は2mとする。
  - b. セニア・ジュニア：飛び降りの高さは、最高200cmとする。
  - c. ミニメ・ベンジャミン・フェミナ：飛び降りの高さは、最高80cmとする。
  - d. プッシュン：飛び降りの高さは、最高50cmとする。
  - e. フェミナ：7歳~9歳の選手がいる場合は、飛び降りの高さは、最高50cmとする。

## 第5項：時間

### ●セクションタイム

セクションを通過するための制限時間は2分間とする。同じ選手権シリーズにおいて全ての試合のセクション通過時間は2分間である。

### ●選手の持ち時間

選手の持ち時間は下記の指針に従って計算される。

- 1) 1セクションにつき10分
- 2) コース1kmにつき15分
- 3) タイムペナルティー 用の延長時間：60分  
例えば、8セクション、コース1km、2ラップの競技の場合には次のようになる。  
 $10 \text{ (分/セクション)} \times 8 \text{ (セクション/ラップ)} \times 2 \text{ (ラップ)} = 160 \text{ 分}$   
 $15 \text{ (分/km)} \times 1 \text{ (km/ラップ)} \times 2 \text{ (ラップ)} = 30 \text{ 分}$   
 $160 \text{ 分} + 30 \text{ 分} = 190 \text{ 分 (合計)}$

### ●ニュートラリゼーション (渋滞の緩和)

1ラップ目の第1セクションで渋滞している場合は1ラップと2ラップの間に待ち時間調整を行うことができる。

(例) 1ラップ目と2ラップ目の間のカード交換時に全選手一律に一定の待ち時間を設け、2ラップ目のスタートを遅らせ、渋滞を緩和する(カードを渡さない)。調整した時間は各選手の持ち時間に加算される。

### ●タイムペナルティー

- 1) セクション  
制限時間の超過は5点減点とする。  
コース(スタート・ゴール)  
タイムペナルティーは各選手のスタート時間を越えるとただちに課せられ、1分遅れるごとに1点減点となる。10分以上遅れた選手は失格となる。  
また、ゴールのタイムペナルティーは、各選手のゴール時間を越えるとただちに課せられ、5分遅れるごとに1点減点となる。ゴールから超過時間が60分を超えた選手は失格となる。

走行時間の持ち時間が5:00:00(4:00:00+1:00:00の遅延ペナルティ)の場合、最初のペナルティポイント(1点)は、4:00:00を超えて5分経過するまでにゴールしたライダーに与えられる。

## 第6項：ニュートラルゾーン

各セクションの入口の手前2m~3mのところのひとつのニュートラルゾーンを設ける。各選手は自分の前の選手がセクションを通過している間はここで待機する。ニュートラルゾーンの範囲を定め、それぞれのセクションの入口を明確に示すためにラインを描かなければならない。選手は、ニュートラルゾーンに自転車の前後輪の車軸が入った状態からスタートしなければならない。

## 第7項：スタート

- 1) スタート順は抽選によって決められる。
- 2) 2名1組、2分間隔でスタートさせる。
- 3) 2名の選手は同時にスタートする(下記の例)。

競技1日目(土曜)                      競技2日目(日曜)  
↑    ↑  
スタートグループ B&C                  スタートグループ A

ミニメット
ベンジャミン
プッシュン
フェミナ

セニア
ジュニア
エリート

- 4) スタートシステム

システム1:全てのライダーはセクション1からスタートし、数字の順を追って走行する。

システム2:半数のライダーがセクション1からスタートし、残りのライダーはセクション5または6または7からスタートする。(1つの大会で設定されるセクションは、最低10から最大14の範囲で、主催者によって任意に決定される。)

#### 第8項:表示規定

コースを示す表示とセクションを示す表示は、異なるものでなければならない。コースはライダーを混乱させないように、全てのセクションに沿って作られ、スタートとゴールが明確に示されなければならない。

セクションは明確に表示されなければならない。それぞれのセクションにおいて、スタートとゴールのラインは、はっきりとわかるよう示されなければならない。また、必要があれば、走行区間を示す表示を設置する。走行時間を正確に計るためにセクションの終わりにラインを設けなければならない。セクションには下記のグループ別で決められた番号を示す必要がある。

グループA:1番から14番  
グループB&C:21番から28番

#### 第9項:セクションの設置

セクションはできるだけ自然物を利用して作られなければならない。セクションの境界を示すために耐性の強いテープを用いて通り抜けできないようにする。テープは、地面に打ち込んだ杭や自然物にしっかりと結び付け、良く見えるように固定する。テープを張る高さは、いずれの箇所においても地上約30cmとする(できるだけそれに近く張る)。テープが切れた場合には、次の選手が進入してくる前に、同じ位置に張り直すものとする。コースとセクションを示すために上述のマーカーを用いる以外に、観客との安全な距離を保つために柵等で境界線を設けることが望ましい。

#### 第10項:セクションとマーカーの色

- |                |      |
|----------------|------|
| 1) グループA: エリート | 黄    |
| セニア            | 赤    |
| ジュニア           | 赤    |
| 2) グループB: ミニメ  | 青    |
| ベンジャミン         | 緑    |
| ブッシン           | 白    |
| 3) グループC: フェミナ | オレンジ |

#### 第11項:カテゴリー

いかなる国の代表員(デリゲイト)も、あらゆる国際選手権大会のすべての競技総監督に対し、すべての出場選手の年齢を公式書類やパスポートによって確認してほしいと要請することができる権利を有している。また、いかなる地方代表員もあらゆる地方選手権大会のすべての競技総監督に対し同様の申請を行うことができる。選手は下記の3つのグループに分類される。

#### 1) グループA

エリート: 世界選手権の終了後にエリート部門に昇格できる選手の数を決定するのはバイクトライアル・テクニカル・グループである(昇格できる人数はスクラッチ(ジュニア+セニア)ランキングより最低3名で最高

8名までとする。エリートクラスへの特別昇格は実施されない)。バイクトライアル・テクニカル・グループは、年内ランキングが最下位の選手に対し以前のカテゴリーに降格するようにと要請することができる。年間活動を行わなかった(世界選手権、ヨーロッパ選手権、アジア選手権に参加しない)エリートクラスの選手はエリートクラスから自動的に降格するものとする(ただし、けがによる場合はこの限りではない)。

●選手がエリートクラスからの降格を希望する場合には、

- 選手は自国の連盟にその旨を申し出なければならない。
- 申し出を受けた連盟は国際バイクトライアル連盟にその申し出を送付する。
- 国際バイクトライアル連盟は会議を開き最終決定を行う。

セニア: 1995年及びそれ以前生まれ

ジュニア: 1996年~1998年生まれ

#### 2) グループB

ミニメ: 1999年~2001年生まれ

ベンジャミン: 2002年~2004年生まれ

ブッシン: 2005年~2007年生まれ

#### 3) グループC

フェミナ: 女子クラス。2004年及びそれ以前生まれ  
フェミナ部門は1クラスのみで、年齢によって下記のハンディキャップがある。(最終スコアにハンディキャップをかける)

16才およびそれ以上 減点×1.3

(1998年及びそれ以前生まれ)

13才、14才および15才 減点×1.2

(1999年~2001年生まれ)

10才、11才および12才 減点×1.1

(2002年~2004年生まれ)

7才、8才および9才 減点×1.0

(2005年~2007年生まれ)

例) 減点 58p × 1.3 = 75.4

(小数点第一までつける)

#### 5) グループD

ナシオン(国別対抗): 7カテゴリーの競技結果の内、上位6結果

#### 6) グループE

コンストラクター 7カテゴリー(エリート、セニア、ジュニア、ミニメ、ベンジャミン、ブッシン、フェミナ)の各最上位結果の合計による。これらの部門に参加するコンストラクター(自転車製造業者)は、500ユーロの参加費を支払わなければならない。参加費は世界選手権の第1戦開催以前に、その国の連盟を通じてB. I. U. に支払われなければならないものとする。参加コンストラクターの名称は、スタートリスト、オフィシャルリザルト等、すべての競技結果と公式の書類に記載される。

#### 第12項:オブザーバー

●オブザーバーの責務

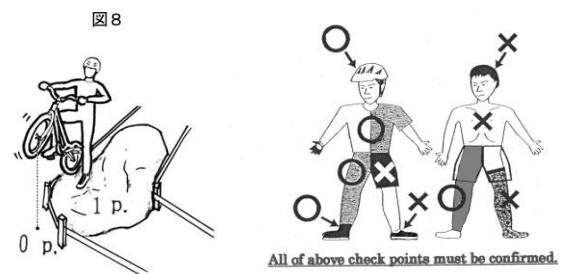
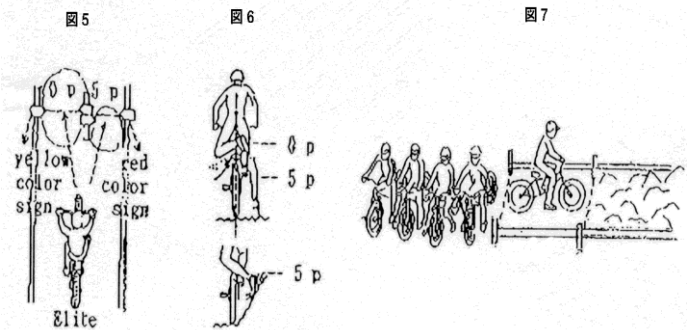
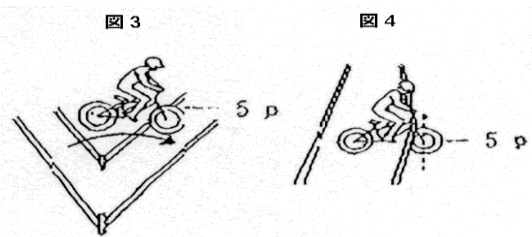
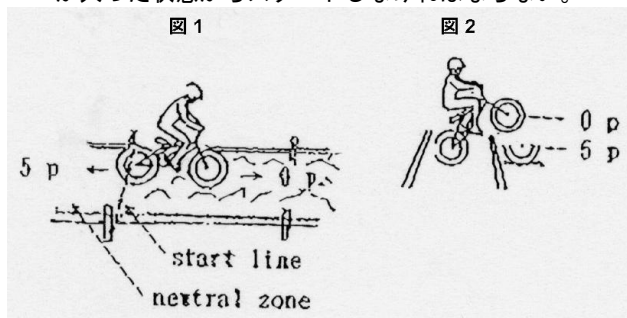
- 1) オブザーバーはイベントディレクターによって任命され、セクションにおいて最高権限を有する。オブザーバーは公平で偏見なくあらねばならない。オブザーバーは全ての選手を同じ基準で採点するように努めなければならない。もし迷った場合は選手にとって有利な判定を下さなければならない。オブザーバーは18才以上でなければならない。自国の連盟の発行するライセンスを取得していなければならない。各セクションに最低1人のオブザーバーが配置されるが、1つのセクションで複数のオブザーバーによって採点がなされる場合には、代表のオブザーバーを定め、他のオブザーバーは補佐として行動する。
  - 2) オブザーバーはカウントダウン・ウォッチを用い、「残り時間1分、30秒、15秒、5、4、3、2、1」といった具合に、英語で残り時間を知らせなければならない。チーフオブザーバーは、採点を行う場合には、タイマー係を兼任できない。
  - 3) 選手が定められた方法(第32項 抗議)以外で抗議を行う事は認められない。  
オブザーバーは選手との抗論が生じた場合、選手の抗議が5秒以上続いた場合には警告してイエローカードを示す。更にその選手が5秒以上抗議を続けた場合にはレッドカードを示す。レッドカードを示された選手は減点10点となる。
  - 4) 採点に関する異議、質問；オブザーバーには選手以外からの異議、質問を聞く義務はない。(第13項第29番参照)
  - 5) いかなる議論においてであれ、オブザーバーにたいして悪言をはいた場合(第13項 第30番参照)、50点の減点を科す場合がある。
  - 6) オブザーバーは競技終了後、直に、競技総監督のもとに行き自分の担当セクションで生じた問題を報告しなければならない。
  - 7) オブザーバーは自分と関係のある選手を判定してはならない。
  - 8) オブザーバーは責任をもってセクション完成時にセクション監査を行い、競技中も良い状態に保たなければならない。セクションテープ、カラー・マーカー等の資材はオブザーバーが回収する。
- 第13項：採点
- 減点
- |                    |    |
|--------------------|----|
| 1) 制限時間の超過         | 5点 |
| 2) セクション内での減点がない場合 | 0点 |
| 3) 足つき1回           | 1点 |
| 4) 足つき2回           | 2点 |
| 5) 両足同時についた場合      | 5点 |
| 6) 足つき3回～4回        | 3点 |
| 7) 足つき5回以上         | 5点 |
- ◆注意：寄りかかりは減点の対象となる。ただし、接触はこの限りではない。
- 8) ハンドルバーで地面や木や壁などに寄りかかった場合 1点
  - 9) 手で地面、木、壁などに寄りかかった場合 5点
  - 10) 体のどの部分でも地面に寄りかかった場合(足の裏以外) 5点
- その他の罰則
- 11) 1度前輪の車軸がセクションのスタートラインを越えてセクション内に侵入した後、再度車体のいずれかの部分でもスタートラインから出たり、触ったりした場合。(図1参照) 5点
  - 12) 自転車のタイヤがセクションテープの上を越えてセクション外に接触した場合。 5点
  - 13) セクションテープを越えても、車輪が前後どちらか一方のみで、地面に接触していなければ減点の対象にはならない。(図2・図8参照) 0点  
但し、足を着きながら車輪の前後どちらか一方が空中でセクションテープを越えた場合は1点。
  - 14) 自転車の両輪がセクションテープを越えた場合。(図3参照) 5点
  - 15) 自転車の前輪と後輪の車軸を結ぶ線がカラー・マーカーをまたいではいけない。(カラー・マーカー上の線とクロスしてはいけない) 5点
  - 16) 自転車でセクションテープを押し広げたり踏んだ場合。 0点
  - 17) 自転車の車輪の軸がテープの下を潜り、テープと地面の垂線から出た場合。(図4参照) 5点
  - 18) 自転車の両輪の車軸が指定されたカラー・マーカー、セクションテープ、杭の間を通過しなかった場合。 5点
  - 19) 自転車の前輪の車軸がライダー自身のカテゴリ以外のカラール・マーカーを通過した場合。(前輪の車軸が他のカテゴリを示す左右の矢印で結ばれた線を越えてはならない) (図5参照) 5点
  - 20) セクションテープを切ったり、杭を引き抜いたり倒したりした場合 5点
  - 21) 但しカラー・マーカーのみを落とした場合は減点の対象にはならない。 0点
  - 22) 足が地面に着いた状態で、手がハンドルバー以外を触った場合。 5点
  - 23) 一方の足が地面に着いた状態で、もう一方の足が自転車の車体の中心線を越えて、車体の反対側の方へいった場合。 5点
  - 24) 一方の足がペダルに乗ったままの状態、もう一方の足が自転車の車体の中心線を越えて、車体の反対側の方へいった場合。 0点
  - 25) 但し、車体の中心線を越えた足が地面、木、壁などについた場合。(図6参照) 5点
  - 26) 一度ついた足をずらせた場合。(ただし、ついた足を前後左右に動かさず、爪先を軸にして回す事は減点の対象にはならない) 3点
  - 27) 選手やその他の者がセクション内の障害物を動かしたり、セクションをつくり変えたりする事は認められない。 10点
  - 28) 爪先や踵で寄り掛かった場合。(ペダルで何かに寄りかかった場合は減点とはならない) 1点
  - 29) オブザーバーは選手以外の異議や抗議を聞く義務はない。(罰則の適応は競技総監督の決定に委ねる) 10点
  - 30) オブザーバーに対して悪言をはいた場合。(罰則の適応は競技総監督の決定に委ねる) 0～50点
  - 31) 採点カードを紛失；採点カードのみがセクションにおける減点数を正式に記録する媒体と定める。(セクションに配置されているボードは、参考として減点を知るためのものである) 10点
  - 32) **選手は友人、関係者、マインダーなどから以下のような肉体的な補助を受けてはならない。**  
①選手自身以外が採点カードを持つ事。  
②自転車の運搬や移動の補助を受ける事。  
③セクション下見の間に列に並ぶ事。  
補足：列に自転車だけ並べる行為も認められない。  
④自転車の調整、修理の助けを受ける事。

但し、グループB&Cの選手に限り、上記の援助が認められる。 10~50点

- 33) 選手以外（観客、選手の親族や友人）が、セクション内に入る事は認められない。[マインダー（ヘルパー）に関しては、「知っておくべき事」の「マインダーに関する制限事項」参照のこと。罰則の適応は競技総監督の決定に委ねる] 10点
- 34) コースを近回りした場合。 10点
- 35) 採点カードにセクション減点が記載されていない場合。順番とばしにより、セクションを走行しなかった場合や採点カードの紛失、採点カードへのパンチ忘れ。（選手はセクション番号順に走行しなければならない。） 10点

●知っておくべき事

- 36) 体は、セクション内のいかなる物にも、接触することは許されるが、よりかかることは減点の対象となる。
- 37) インしてから、いかなる場合でも自転車でセクションの境界線より外へ行くことは許されない。
- 38) 採点における自転車の端点は次のように定める。
  - a. 前部：前輪の車軸
  - b. 後部：後輪の車軸
  - c. 接地：タイヤの接地面
- 39) 自転車の前輪の車軸がセクションに侵入してから退出するまでの間が採点される。
- 40) オブザーバーは選手に対し減点数を指で示すこと。
- 41) 選手はヘルメット着用しなければならない。そうでない場合には、オブザーバーは選手がセクションに入ることを許可しない。  
**また、BCJは長ズボンと踵を覆うような靴を推奨する。**
- 42) 選手とオブザーバーの間で疑問が生じた場合には、オブザーバーはカードの裏側にそのことを記入し、競技総監督に決定を委ねる。
- 43) マインダー（ヘルパー）に関する制限事項
  - a. マインダーの人数制限は定めない。
  - b. マインダーは必ず一人が選手と同じ番号のゼッケンを付けなければならない。
  - c. 選手が危険と思われる場合に限り、選手と同じ番号のゼッケンを付けたマインダーのみがセクション内に入る事ができる。
- 44) セクションの入り口では、選手はインの左右を結ぶラインに平行に並んで順番を待たなければならない。
- 45) 申告5点を認める（セクションに進入しなくても、オブザーバーへの申告により5点の採点を得ることができる）
- 46) 選手は、ニュートラルゾーンに自転車の前後輪の車軸が入った状態からスタートしなければならない。



第14項：練習

選手は主催者によって定められた競技会場区域内に入って練習を行ってはならない。また、大会1週間前以降にコース及びセクションとして使用される区域に進入してはならない。選手が自転車に乗ってその区域に入った場合には、その選手はその大会から締め出されるものとし、また、それがいかなる試みであっても、その後のすべての選手権大会からもその選手を締め出すことができる理由になり得るものとする。

第15項：採点カード

採点カードは、字を書くことができるビニール製、または耐水紙製のものであること。サイズは50mm×180mm。1番から20番までのセクション番号と、減点数を表す0、1、2、3、5の数字が記載されていること。採点カードの上部には、選手名、ゼッケンナンバー、カテゴリー、マーカ一色を記入する欄があり、下部には出発時間、終了時間、所要時間を記入する欄が設けられていること。各セクションにおける減点は、採点カードの減点数の位置にカードパンチャーで穴をあけることによって表示すること。

第16項：競技ゼッケン

主催者は、選手、マインダー、もしくは自転車に付けるための競技ゼッケンを用意しなければならない。競技ナンバーの大きさは、約10cm×15cmとする。競技ナンバーは、前面に良く見えるように取り付ける。カラー・マーカ一は、はっきりと見分けることができるように自転車の前面に取り付ける。1番から50番までの番号はエリートクラスの選手のために取っておく。選手の番号は前年の世界選手権大会での成績に基づいて指定される。これらのゼッケンは番号順に手渡されるものとする。今年休みで空き番号が生じた場合には、その番号のゼッケンは手渡されない。

参加ポイント	0.1
--------	-----

第 17 項：宣伝広告

特定の会社などの宣伝となる文字などを選手の装具や自転車に表記することは許されている。ゼッケンに宣伝となる文字などを表記するかどうかということは主催者の判断に任されている。選手は主催者から与えられたゼッケンをそのままの状態で使用しなければならない。これに反した場合は、減点 50 点とする。

第 18 項：選手の服装

選手は、ヘルメットを着用する。さもなくば、競技総監督から出場の承諾を得ることができない。服装は長ズボン、シャツ、少なくとも足首までは包んでいるブーツを、長ズボンは、素肌が露出していないものを推奨する。また、足首は外側、内側共に包まれている身体の保護を目的としたものを使用し、また手袋と長袖シャツの着用を勧める。

第 19 項：選手の遵守事項

参加受付を完了した選手は徒歩でセクションのチェックを行うことができ、セクションに入る順番は自由である。選手は、大会期間を通じて常に、他の参加選手や主催者やその他の人々に対し不適切な言動を慎みスポーツマンらしく振る舞わなければならないものとする。

第 20 項：主催者

主催者は、合法的に設立され、しかもそれぞれの国のバイクトライアル連盟と密接な関係がある団体（組織）に属していなければならない。主催者は、定められた競技規則を実践し、大会規定を編集し、選手に必要な情報を与えなければならない。

第 21 項：参加費

国際バイクトライアル連盟や各国のバイクトライアル連盟等は連盟と密接な関係のある団体や主催者に対して年会費を請求することができる。いかなる種類の大会であれ、その大会に関係しているバイクトライアル連盟は、主催者に対して大会の公認料を請求することができる。主催者は、選手に対し参加費を請求することができる（ただし、エリート部門は除く）。

第 22 項：賞

主催者は、少なくとも各カテゴリーにおける 3 位までの上位選手に対しトロフィー等の賞を贈る。また、エリート部門における 3 位までの上位選手には賞金を贈呈する。世界選手権大会と各国の全国選手権大会においては、参加者全員に記念となる参加賞を贈る。

第 23 項：選手権大会におけるランキングポイント

選手権シリーズにおいては、それぞれの主催者は、競技総監督と Jury によって署名がなされた競技結果を、競技の翌週に、統括する連盟に提出しなければならない。競技結果には、参加者全員のセクション別減点数が記入され集計表が添付されていなければならない。各カテゴリーにおいては、上位 15 選手に下記のランキングポイントが与えられる。1 位から 15 位までのポイント獲得者を除く、ゴールしたすべての選手に参加ポイントが与えられる。

順位	ポイント	順位	ポイント	順位	ポイント
1 位	25	6 位	10	11 位	5
2 位	20	7 位	9	12 位	4
3 位	16	8 位	8	13 位	3
4 位	13	9 位	7	14 位	2
5 位	11	10 位	6	15 位	1

主催者はまた、赤色のセクションを走行した選手に関するカテゴリー別「スクラッチ」の競技結果も作成し、統括する連盟に提出しなければならない。これは、エリート部門へ昇格する選手を決定するために用いられる。

第 24 項：順位判定

● 試 合

1) グループ A / B / C

減点数の合計で順位が決定する。（グループ C に関してはハンディキャップ制が採用される。）減点数の少ない選手を上位とするが、同点の場合は以下の順番により順位を決定する。（付随資料図 1 参照）

- クリーンの数が多い順
- 減点 1 の数が多い順
- 減点 2 の数が多い順
- 減点 3 の数が多い順
- 走行時間の短い順
- 勝敗が決定するまで 1 セクションごとの決定戦を行う

図 1 （8 セクション×2 の時間：4 時間+60 分のペラルティタイム）

選手	1 ラップ								2 ラップ								タイム			合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	スタート	ゴール	TP	
A	0	0	1	0	2	0	0	5	0	0	3	0	0	0	0	0	10:00	14:00'00"	1	12
B	0	0	5	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	10:30	14:34'59"	1	12	

この場合、A の選手が B の選手より 4 分 59 秒走行時間が短いので勝利となる

2) グループ D：国別

選手権有効ポイント（7 カテゴリーの競技結果の内、上位 6 つのポイント合計）で国別順位が決定する。有効ポイント合計が多い国を上位とするが、同点の場合は以下の方法により、順位を決定する。（同資料図 2 参照）

- 有効の 6 つを除くポイントの内、最も数の大きいポイントを比較し、大きい方
- 次に数の大きいポイントを比較し、大きい方
- 上位成績が多い順（1 位の数、2 位の数、3 位の数…）
- 同順位とする（a～c で同点の場合）

図 2 （7 カテゴリーの内、大きい 6 カテゴリーの合計）

国	グループ A			グループ B			グループ C			合計	有効ポイント
	エリート	セニア	ジュニア	シニア	ベテラン	アマチュア	ジュニア	セニア	TP		
A	25★	25★	20★	10★	1★	16★	1(nep)			98	97
B	16★	10★	25★	20★	0(nep)	1★	25★			97	97

この場合、有効外ポイント数の大きさにより、A 国のチームの勝利となる。

3) グループ E：コンストラクターズ

有効ポイント（各カテゴリーごとの、最も良い成績のポイント合計）でコンストラクター順位が決定する。ポイント合計が多いコンストラクターを上位とするが、同点の場合は以下の方法により、順位を決定する。（同資料図 3・4 参照）

- 上位成績が多い順（1 位の数、2 位の数、3 位の数…）
- 同順位とする（a でも同点の場合）

図 3 （グループ A、B、C の 7 カテゴリー対象）

コンストラクター	グループA			グループB			グループC	合計	有効ポイント
	イロト	セニア	ジュニア	ミニモ	ベテラン	プロ	ポイント		
A	25	16	8	11	17	17	25	118	1 <sup>st</sup>
B	2	13	6	16	4	13	8	62	4 <sup>th</sup>
C	7	7	7	25	13	25	0	84	3 <sup>rd</sup>
D	13	25	25	20	9	9	11	112	2 <sup>nd</sup>

この場合、有効ポイントの合計が1番大きいAの勝利となる

### ●選手権シリーズ

#### 1) グループA/B/C/D/E

シリーズランキングにおいて選手別・国別・コンストラクター順位は有効ポイントの合計で決定する。(全戦中成績上位3戦分のポイント合計) 同点の場合は以下の順番により順位を決定する。(同資料図5参照)

- 有効の3つを除くポイントの内、最も大きいポイントと比較し、大きい方。
- 次に数の大きいポイントと比較し、大きい方
- 上位成績が多い順(1位の数、2位の数、3位の数…)
- シリーズ最終戦の上位順
- シリーズ最終戦から1つ前の大会の上位順

図5 (ポイント数の大きい3戦の合計)

選手	1戦目	2戦目	3戦目	4戦目	5戦目	合計	有効ポイント
A	25★	20(a)	25★	16(b)	20★	106	70
B	20★	25★	20(a)	25★	16(b)	106	70

この場合、最終戦の有効ポイントの大きさによって、Aの選手の勝利となる。

### 第25項：選手権大会の開催権

国際バイクトライアル連盟は、世界選手権バイクトライアル大会、ヨーロッパ選手権大会、ワールド・バイクトライアル・インドア・カップ(世界選手権インドアバイクトライアル大会)の開催権とこれらの大会の名称の使用権を有している。これらの大会の主権者は、その国の代表員を通して、国際バイクトライアル連盟に対し大会開催権の取得を申請しなければならない。同様に、各国の全国選手権大会の場合は、当該国のバイクトライアル連盟がその開催権と大会の名称の使用権を有しており、地方選手権大会の開催権と大会の名称の使用権は当該国の連盟の当該地方における代表機関が有している。

世界選手権バイクトライアル大会の主権者と、国際的なバイクトライアル大会の主権者は、大会の10ヶ月前までに国際バイクトライアル連盟との協約に調印しなければならない。大会の5ヶ月前までに主催料を支払わなければならない。主催料が締切までに国際バイクトライアル連盟に支払われない場合、その大会の取り消しをすべての代表者に通知する。

もし主権者が突出した決定力を持ち、または国際バイクトライアル連盟の規範にあわない場合、その国の連盟に対して制裁措置を取り得る。大会が取り消しになった場合、すべての金銭の払い戻し、弁償はされない。

国際的なバイクトライアル選手権大会は関係国の協力のもとで開催され、それぞれの国が自国で開催される試合の管理を担当し、競技結果が集計される。地方選手権大会はその地方を担当している連盟によって開催される。

世界選手権バイクトライアル大会は、通常の場合、異なる国で開催される4つのシリーズ戦から構成される(シリーズ数を変更する必要がある場合には、代表員による会議において変更を行うことができる)。世界選手権インドアバイクトライアル大会の場合には、試合数に制限はなく、どの国も2試合またはそれ以上の試合を開催することができる。

国際バイクトライアル連盟の本部に試合の開催を申請する期限は、前年の9月の末日とする。関係するテクニカル・グループは選手権大会の試合の日程を決定し、関係するすべての主催者ならびにその年にライセンスを所持しているすべての人に詳細事項を知らせる。

### 第26項：世界選手権バイクトライアル大会

世界選手権バイクトライアル大会は、この大会に特有な規則によって行われ、開催国の連盟の主管により、ルールにしたがって開催される。

- 主催者は、各国の代表者にB. I. U. フォーマットによる大会の参加申込書を、遅くとも大会の3ヶ月前には送付しなければならない。
- 主催者は、各国の代表者に大会の参加申込書および案内(開催地の地図、宿泊案内、および大会スケジュール)を、遅くとも大会の3ヶ月前には送付しなければならない。
- 第1戦の少なくとも1ヶ月前までに、参加国は、その国の代表者により国内の連盟を通して、国際バイクトライアル連盟事務局に参加申込書及び参加選手のリストを送付しなければならない。(手書きによる記入は受け付けない)

例)

Cat.	F. Name	G. Name	B. Year	Nat.	License No.	Bike/WS	R 1	R 2
Sen.	HIRANO	Hiroishi	1956	JAPAN	081-00000	Hiro/20"	Yes	No

世界選手権シリーズ戦の全てのエントリーの締切日は、シリーズ第1戦の開催日一ヶ月前である。

- 参加国の代表者は正当な理由がある場合、大会の1ヶ月前までで同じカテゴリーであれば初期の参加者名簿から参加選手名を変更する権限を有するものとする。上記に遅れた場合、エントリーリストの(記述の一部であっても)いかなる変更も受理出来ない。
- 1ヶ国あたりの参加者数は土日とも1日につき最大20名、1大会あたりの参加者数は土日とも1日につき最大150名とする。大会の全参加者数が上述の制限に満たない場合には、開催国は自国の選手により不足数を補うことができるものとする。
- エントリー費用は一人30Euroとする。BIUに完全なエントリーリストを送る前に、代表(デリゲート)はライダーからエントリーに含ませて費用を集めなければならない。選手がそのイベントに到着しなかったら、(もし正当な証明、あるいは怪我そのたの有効な理由がない場合)、彼/彼女はエントリー費用を失う。BIUに提出するエントリーリストの総数と実際に大会に参加するライダーリストの数が一致するように、確かめる必要がある。費用はイベント開催前の金曜日に行われる初のジュリーミーティングのはじめに、代表(デリゲート)またはチーム監督から主催国の代表に払われなければならない。
- コンストラクターズになるには、参加費500ユーロを支払う必要がある。参加費は国内バイクトライアル連盟を通じて、国際バイクトライアル連盟に支払われる。(80%は国内バイクトライアル連盟に配分され、20%は国際バイクトライアル連盟に配分される)エントリー締切日は世界選手権第1戦の1ヶ月前。エントリー費は世界選手権第1戦までにB. I. U. に支払われなければならない。メーカー名は大会結果などB. I. U. の公式書類に掲載される。

●イベントスケジュール

大会は次のスケジュールにしたがい開催される。

大会 1 日目

グループ	カテゴリー	色
グループ B	ミニメット	青
	ベンジャミン	緑
	ブッシン	白
グループ C	フェミナ	オレンジ

大会 2 日目

グループ	カテゴリー	色
グループ A	エリート	黄
	セニア	赤
	ジュニア	赤

●その他

- エリートクラスのゼッケンナンバーは、主催者が確保し、大会の進行に則して使用するものとする。
- すべてのライダーとチームスタッフは、イベントの公式行事（歓迎会、開会式、表彰式と閉会式）には、定められたユニフォームを着なければならない。スタート前に開会式が開催される場合だけ、選手は走行できる服装で参加できる。チームユニフォームは最低限シャツとパンツを公式のウエアとする。しかし、できれば完全なセット（シャツ、パンツ、キャップ/帽子とジャケット）を作成することを推奨する。チームユニフォームの材料・デザインの選択は自由。しかし国内連盟のロゴと国旗はユニフォーム各々に印刷されなければならない。
- 参加各国はその国の国旗及び国歌により紹介され、通常それらの掲示は大会初日に行われるものとする。
- 主催者は開会式において、各国の代表者および参加選手が関係者各位の前を行進する、公式な紹介の場を設けなければならない。
- 主催者は表彰式における勝利者表彰のため、国旗、国歌、表彰台を用意しなければならない。主催者は表彰式における各カテゴリーの上位 3 名の勝利者を、以下の順番で表彰しなければならない。
  - ブッシン
  - ベンジャミン
  - ミニメット
  - フェミナ
  - ジュニア
  - セニア
  - エリート
  - 国別
  - コンストラクター
- 主催者は、キャンピングエリアの入口にインフォメーションボードを設置し、全ての案内（タイムスケジュール、特別規則、暫定リザルト等）を掲示しなければならない。（第 32 項参照）
- 主催者は全般的な案内のための拡声器を用意するものとし、それらの案内は少なくとも英語でなされなければならない。
- 主催者は、男女それぞれ 5 組のトイレとシャワーを備えた、十分な収容能力及び面積のあるキャンピングエリアを用意しなければならない。
- 主催者は各セクションに選手、マインダー（ヘルパー）、観客が見られるよう、減点数を示すボードを設置しなければならない。
- 全ての大会を通じて、1 セクションあたりの制限時間は 120 秒とする。（第 5 項参照）
- B. I. U. の連盟旗は、最終戦を除き、閉会式の終わりに次の大会の開催国の代表者に渡されるものとする。

- 主催者はコンピューターのための B. I. U. 公式ソフトウェアを使用しなければならない。大会データは、大会終了後出来るだけすばやく（5 日以内）、B. I. U. 本部まで送らなければならない。
- 主催者は B. I. U. から提供されたエントリーリストを書き換えることは出来ない。
- 主催者はイベント終了後 1 週間以内に、公式結果（明瞭に印刷された）を、B. I. U. 本部まで送らなければならない。
- 主催者は、損害・生命・災害の各保険を、選手、観客及びスタッフに対してかけなければならない。
- 主催者は各選手のゴール時間を時・分・秒で記録しなければならない。
- 主催者はセクション毎に無線機を用意しなければならない。
- 主催者は各選手の服装やマシンがルールに従っているかを検査しなければならない。さらにエントリーリストを確認しなければならない。（第 18 項、第 28 項参照）もし選手が規則に反していた場合は、主催者は次のように管理しなければならない。
  - スタート前：選手は大会に参加出来ない。
  - セクションイン前：オブザーバーが見つけた場合、選手はセクションに入ることは出来ない。
  - セクションイン後：セクションに入ってしまった、オブザーバーが見つけた場合、選手は走ることを続けることは出来ない。そのセクションは減点 5 となる。
- ジュリーミーティングのスケジュールは次の通り：
  - 第 1 回会議（金曜日）：セクション監査、1 日目（グループ B/C）エントリー受理、及びスタート順決定
  - 第 2 回会議（土曜日・競技終了後）：2 日目（グループ A）エントリー受理、及びスタート順決定、グループ B/C の競技結果承認
  - 第 3 回会議（日曜日・競技終了後）：30 分間で終了しなければならない。グループ A の競技結果承認もし、抗議などの理由で暫定結果が承認されない場合、表彰式では暫定結果で発表される。この後第 4 回会議により審議がなされる。
  - 第 4 回会議（日曜日・閉会式終了後）：その他結果承認
- 主催者はセクション監査前にジュリーのメンバー用にコースマップとセクションチェックシートを揃えなければならない。
- 競技総監督とジュリーのメンバーのみセクション監査を行うことが出来る。（第 34 項、第 36 項参照）
- 悪天候や災害事故がイベント中に起こり、チャンピオンシップが安全を理由に中止された場合、競技の 50% を終えていれば、その結果を B. I. U. は認める。それが意味するところは、すべてのライダーが最低 1 ラップ終えているということである。
- 各カテゴリーの競技成立に必要な最低参加人数は、3 カ国から 3 名と定める。この規定以下のカテゴリーは競技不成立となる。選手権がシリーズ戦で行われる場合、第一戦で不成立となったカテゴリーは、その年の選手権から外される。ワールドカップ格式での開催は認められる。

第 27 項：世界選手権インドアバイクトライアル大会  
世界選手権インドアバイクトライアル大会は、国際バイクトライアル連盟により規定された規則に基づき行われる。主催者は自己の責任により適切に行われるよう進めなければならない。

●保証

主催者は下記の事項を選手に対し保証しなければならない。

- 1) 旅費
- 2) 宿泊及び食事  
[各選手・マインダーの、少なくとも大会前日と当日分]
- 3) 事故が起こりうる大会および大会業務において、選手、観客及びスタッフに対する損害・災害・障害の各保険

●選抜

主催者は、エリート前年度ランキングから、少なくとも最低5人のトップライダーを招聘しなければならない。その他の招待選手は主催者が選ぶことができる。(注意：全ての選手が15歳以上であること。また可能であればエリートクラスの選手の招聘をできるだけ優先する。)

●競技

世界選手権インドアバイクトライアル大会は、8名かそれ以上の選手により開催され、国際バイクトライアル連盟に提案する。主催者は2種類の競技方式の内1つを選択するものとする。

1) 基本方式

- 第1ラップ：決勝に進む上位4選手を決める予選ラップ。5位から8位はこのラップで決定。
- 第2ラップ：1位から4位までを決定する決勝ラップ。(注意：上位4選手の最終結果は1ラップ目と2ラップ目の総合スコアにより決定される)

○スタート順：

- a. 第1ラップはランキング下位の選手より順にスタートし、チャンピオンが最後にスタートする。
- b. 第2ラップは1ラップ目の成績の低い(最多減点数の)選手より順にスタートし、最高成績の選手が最後にスタートする。

○セクション数：

- 第1ラップ=10セクション(最大/特別セクションを含む)
- 第2ラップ=10セクション(最大/特別セクションを含む)

2) トーナメント方式

- 第1ラップ：準決勝に進む上位4選手を決める予選ラップ。5位から8位はこのラップで決定。
- 第2ラップ：決勝に進む上位2選手を決める準決勝ラップ。3位と4位はこのラップで決定。
- 第3ラップ：1位・2位決勝ラップ。

○対戦ペアの決定：

- グループ1：B. I. U. による選抜選手  
(エリートクラスの前年度ランキング上位5選手)
  - グループ2：主催者による選抜選手  
(上記以外の選手)
- 例) 20インチの大会の場合のスタート順及び対戦ペア

グループ1：B. I. U. による選抜選手

	選手	ペア
1	2013 エリート 1位	→A
2	2013 エリート 2位	→D
3	2013 エリート 3位	→B

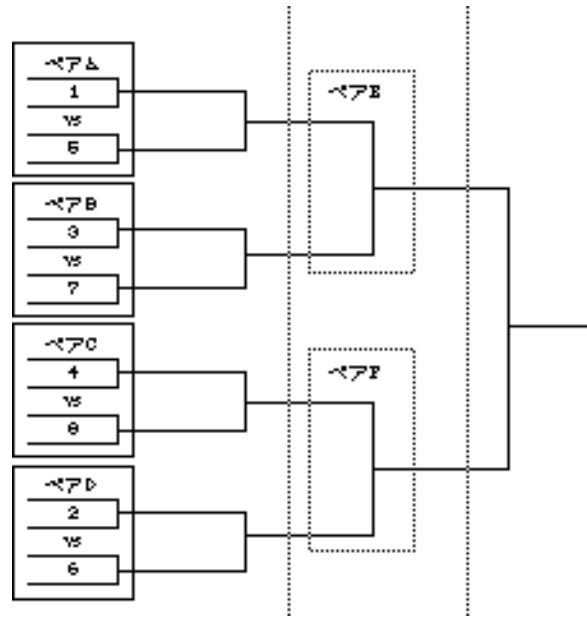
4	2013 エリート 4位	→C
5	2013 エリート 5位	→A

グループ2：主催者による選抜選手

	選手	ペア
6	主催者による選抜選手	→D
7	主催者による選抜選手	→B
8	主催者による選抜選手	→C

グループ2の順番はカテゴリー及び前年度のランキングにより決定される。

第1ラップ<sup>o</sup>(予選) 第2ラップ<sup>o</sup>(準決勝) 第3ラップ<sup>o</sup>(決勝)



スタート順：

- a. 対戦ペア  
第1ラップ=ペアC→ペアB→ペアD→ペアA  
第2ラップ=ペアF→ペアE  
(ランキング下位のペアより順にスタートし、チャンピオンが最後にスタートする)
  - b. セクション  
ランキング下位(大きい番号)の選手がラップの最初にトライし、以後それぞれのセクションで順番を交代する。
- セクション数：
- 第1ラップ=6セクション(最大/特別セクションを含む)
  - 第2ラップ=6セクション(最大/特別セクションを含む)
  - 第3ラップ=8セクション(最大/特別セクションを含む)

●競技結果(リザルト)

主催者は、大会終了後1週間以内に、明瞭に印刷された公式競技結果をB. I. U. 本部まで郵送しなければならない。

第28項：自転車に関する基本規定

競技会で使用される自転車は下記の規定を満たしていなければならない。

●最大20インチの自転車と26インチの自転車

- 1) 前ブレーキバーと後ブレーキバーの端は危険な形状に仕上げられたものであってはならない。



- 2) 自転車には有効なブレーキが装着されていなければならない。
- 3) 10mm以上の長さの金属の突起物がある場合には、危険を避けるために、カバーがなされなければならない。
- 4) 自転車のハンドルバー、フレーム、フォークに亀裂がある場合には、その自転車の出走を認めない。(車検でチェックされる)
- 5) 自転車に使用される素材は自由に選択することができるものとする。
- 6) 主催者は、競技総監督によって危険であると見なされた自転車の出走を認めてはならない。
- 7) タイヤのパターンと横幅は自由であるとする。
- 8) 車検は厳格に行なわれ、合格しなければならない。車体から外れないようにステッカーまたはペイントで印をつける必要がある。

#### ●その他

- 1) 各選手が車検を受けられるのは1台のみである。
- 2) 選手は車検後、自転車を交換することは出来ない。
- 3) 選手はフレーム以外の壊れたパーツを交換することができる。

#### 第29項：自転車のサイズ

最大20インチのホイールサイズが適用されるカテゴリーは、プッシュ、ベンジャミン、ミニメ、フェミナである。(女性は15歳以下)

最大26インチのホイールサイズが適用されるカテゴリーは、エリート、セニア、ジュニア、フェミナである。(女性は16歳以上)

#### 第30項：損傷の責任

主催者は、選手または第三者に起こるかもしれない損傷にたいして、いかなる責任であれ、それを負うことを拒否することができる。かかる責任は選手自身が負うものとする。

#### 第31項：自転車の保管

自転車は、大会の特別規則のなかに明記されている予定表に従って指定された区域に保管される。選手は、自転車保管区域から各自のスタート時刻の10分前に自分の自転車を持ってくることができる。

#### 第32項：抗議

主催者は文書による抗議しか受け付けない。抗議は最終走者が到着してから30分以内に競技総監督宛に提出されなければならない。抗議1件につき1項目とし、各抗議は50USドルの裁定費を添えて提出しなければならない。

#### 第33項：競技規則についての知識

大会に参加する選手は、現行の競技規則(テクニカル・ルール)、ならびに、大会を良いものにするために主催者が与えるその他のあらゆる指示を知っていなければならない、また、それを尊重しなければならない。

#### 第34項：審査委員会(ジュリー)

審査委員会(ジュリー)は、選出された5名の人物から構成される。構成人数は、採決時に同数にならないよう必ず奇数でなければならない、会長をその中に含むものとする(会長が出席できない場合は、副会長がその任務を負う)。会長は、議長となって裁定及び討議の進行に努めなければならない。その他の構成員は、その年の世界選手権開催国の代表者各1名ずつからなり、いかなる構成員も絶対公正、中立でなければならない。構成人数はその年の試合数に応じて奇数人数まで増員もしくは減員される(4試合の場合

は議員数5名、6試合の場合7名)ものとし、欠員が生じた場合には、議長が充員を選任する。しかし、いかなる場合においても同じ国より2名の代表者が選ばれてはならない。競技総監督は審査委員会のメンバーではないが、予期される質問に答えるため会議に招かれるべきである。

#### 第35項：競技総監督

競技総監督は、シリーズ戦、組織、機構、登録、出発と到着、コース、セクション、競技結果、オブザーバーなどに関係したあらゆることを管理するものとする。

- 1) 競技総監督は競技前に全ての選手にセクションの位置図を含んだコース地図を配布しなければならない。
- 2) 競技総監督はスタート地点とゴール地点を、事故を避けるよう明確に設けなければならない。
- 3) 競技総監督は各セクションに予備のセクションテープが配備されているかどうか確認しなければならない。

#### 第36項：コース・セクションの監査

コース・セクションの点検は審査委員会によってなされるものとし、セクションは下記の事項に従うものとする(審査委員会がセクションを修正したり変更したりすることを決定した場合には、主催者はそれに従わなければならない)。

#### ●コース

- 1) コースは、選手が近周りをすることができないように設けるものとする。(第2項参照)

#### ●セクション

- 1) それぞれのカテゴリーの技術のレベルに合わせ、選手と観客の安全に気を遣い設置しなければならない。
- 2) 審査委員会は、各グループ(グループA、グループB、グループC)のセクションの設置のために、専門家を任命することができる。
- 3) 高いステアは避けなければならない。
- 4) エリートを除く各カテゴリーにおいては、技術レベルのあまり高くない国からの参加選手にもチャンスを与えるよう、比較的易しいセクションを設けることが望ましい。
- 5) ビギナーセクションは比較的容易なものであること。

#### ●その他

- 1) マーカー(第8項参照)
- 2) ニュートラルゾーン(第6項参照)

#### 第37項：国際バイクトライアル会議

世界選手権大会の場合は、その大会に参加するどの国も、インターナショナル・テクニカルグループ会議に代表員を出席させ提議を行うことができる権利を有するものとする。

#### 第38項：世界選手権バイクトライアル大会及び世界選手権インドアバイクトライアル大会監督者(マネージャー)

全ての世界選手権大会においては、会長もしくは会長により選任された人物は、主催者によって競技規則が適切に実施されているかどうかを管理する。大会監督者はすべてのラウンドの競技結果を管理し、大会の成功のために最善を尽くすものとする。

#### 第39項：競技規則の解釈

競技規則(テクニカル・ルール)の解釈に際しては、下記の順に優先権が与えられるものとする。

- 1) 競技総監督
- 2) 審査委員会
- 3) テクニカル・グループ（テクニカル・グループは審判員の役も同時に務める）

第 40 項：国内競技規則

それぞれの国は、国際競技規則とは異なる独自の国内用競技規則を減点方式以外に関して、定めてもかまわない。しかし、このような競技規則は国内の競技に対してのみ効力を有するものとする。

2013 年 2 月 1 日より効力を有する  
国際バイクトライアル連盟  
日本バイクトライアル連合